

○第3次米原市総合計画（基本構想・基本計画）の検討フロー

外部環境分析、内部環境分析、市民意識調査、自治基本条例推進委員会（委員意見）の概要から米原市総合計画（基本構想・基本計画）への反映フローを示します。

外部環境分析

〈都市を取り巻く全国的な動向〉

- 福祉
 - 本格的な人口減少・少子高齢化対策、こども施策の推進
 - ・こども施策を社会全体で総合的かつ強力に推進していくため、包括的な基本法として「こども基本法」を施行し、「こども家庭庁」の発足、「こどもまんなか実行計画」を策定など、幅広い子ども政策が進められています。
- 教育・人権
 - 教育DXの推進
 - ・データやデジタル技術を活用して、学校教育をより良く変革することを目的として、教育分野におけるDX化が進められている。
 - 多様な価値観の尊重（ジェンダーレス、ダイバーシティ）
 - ・LGBTQなどの多様な価値観が登場するなど、ひとりひとりの人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会をつくるための取組が行われている。
 - グローバル化、多文化共生
- 環境・防災
 - 自然災害の激甚化・頻発化、防災・減災対策の推進
 - 脱炭素の地域づくりの推進、環境配慮への投資の拡大
 - ・2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことが宣言され、脱炭素を通じて地域課題を解決し、地方創生に寄与する取組が広がっている。
 - GX（グリーントランスフォーメーション）の推進
- 産業経済
 - 製造業DXの推進
 - 感染症対策（新しい生活様式）の定着
 - Well-Beingの推進
 - ・社会的、経済的、環境的に個人の権利や自己実現が保障され、良好な状態にあることを指す考え方が普及している。
- 都市基盤
 - 民間資本・ノウハウの導入
 - ・各地域の実情にあわせた様々な官民連携事業（PPP/PFI）が全国で検討・実施されている。
- 都市経営
 - 市民と行政の協働によるまちづくり
 - ・地域課題の解決に取り組む公益性のある事業の資金調達的手段としてクラウドファンディングが定着しつつあり、地域を応援する関係人口の確保手段としても期待されている。
 - SDGs（持続可能な開発目標）の推進
 - ・地球上の誰一人取り残さないことを目指し、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、日本としても積極的に取り組んでいます。
 - 地方創生の視点でのまちづくりの高まり
 - ・社会情勢がこれまでとは大きく変化している中、地方においてデジタル技術の実装を進めることで地方が抱える様々な課題の解決を図ることが重要であるとして、デジタル田園都市国家構想を策定
 - 5G社会などICT（情報通信技術）等の技術革新
 - ・ICT等の情報通信技術やAI等の情報処理技術の進展に伴い、交通や人流等の都市に関する様々なデータを活用し、都市の課題を解決するスマートシティへの注目が高まっている。
 - デジタル技術の導入による社会の変革

内部環境分析

〈米原市の位置・地勢と現況特性〉

- 米原市の位置・地勢
 - ・古来からヤマトタケルノミコトの神話や息長氏の繁栄、交通の要衝としての歴史など、文化や経済にわたって強い結びつきを持ってきたまち
 - ・滋賀県最高峰の伊吹山や霊仙山をはじめとする緑、清流姉川や天野川や琵琶湖など、水と緑に包まれた自然豊かな水源の里
 - ・滋賀県唯一の新幹線停車駅米原駅のほかJR2路線と私鉄1路線、米原ICおよび米原JCTが立地するなど、県東北部の広域交通の要衝
- 人口の動向
 - ・総人口は減少傾向、世帯数は経年的に増加傾向
 - ・生産年齢人口の割合は約6割を維持しているが、少子高齢化の進行により低下傾向
 - ・合計特殊出生率は全国平均や滋賀県平均を上回っているが、出生数は減少傾向
- 産業、交通、都市環境などについて
 - ・人口10万人当たりの病院数や一般診療所数は、湖北医療圏や全国平均よりも少なく、医療施設不足
 - ・75歳以上1千人当たりの介護施設数は、湖北医療圏や全国平均よりも多く、福祉施設充足
 - ・小・中学校の教員1人あたりの生徒数は、県平均や全国平均よりも少ない
 - ・交通事故発生件数や刑法犯認知件数は減少傾向
 - ・製造業（第2次産業）の産業特化係数は、県平均や全国平均よりも高い
 - ・観光入込客数やJR各駅の利用者数はコロナ禍以降回復傾向、JR定期券利用者数は横ばいに推移



第2次米原市総合計画の評価検証

〈総合計画（第1章～第6章）の施策進捗・目標指標達成状況〉

	検証1 成果指標（数値目標）の達成状況	検証2 市民目線の評価（アンケート調査結果）
第1章 健やかで安心して暮らせる 支え合いのまちづくり 【福祉】	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉分野に関する指標の50.0%がS・A評価である。 ・一方で、冒険遊び場の設置数や予防接種の接種率など、C評価が28.9%ある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「6. 地域医療体制の充実」は、満足度が低く、重点的に取り組むべき施策 ・その他の5つの施策は、満足度と重要度がともに高く、今後も維持すべき施策
第2章 ともに学びかがやき合う 人と文化を育むまちづくり 【教育・人権】	<ul style="list-style-type: none"> ・教育および人権分野に関する指標のS・A評価は11.5%にとどまっている。 ・一方で、不登校児童生徒数や地域スポーツクラブ会員数など、C評価が53.8%ある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「7. 教育内容、施設の充実」「8. 家庭・学校・地域の連携推進」は、満足度と重要度がともに高く、今後も維持すべき施策 ・「14. 男女共同参画の推進」「15. 多文化共生の推進」は、満足度と重要度がともに低く、取組の改善が必要な施策
第3章 清く緑あふれる 自然と共生するまちづくり 【環境・防災】	<ul style="list-style-type: none"> ・環境および防災分野に関する指標のS・A評価は27.6%にとどまっている。 ・家庭から出るゴミのリサイクル率や水道の有収率など、C評価が41.4%ある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「19. 新エネルギーの導入」「20. やすらぎ環境の整備」は、満足度と重要度がともに低く、取組の改善が必要な施策 ・その他の5つの施策は、満足度と重要度がともに高く、今後も維持すべき施策
第4章 地域の魅力と地の利 を生かした活力創生 のまちづくり 【産業経済】	<ul style="list-style-type: none"> ・産業経済分野に関する指標は、50%がS・A評価である。 ・一方で、伊吹山への観光客数、女性管理職の割合など、C評価が25%ある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「26. 就労環境の整備」は、満足度が低く、重点的に取り組むべき施策 ・その他の3つの施策は、満足度と重要度がともに低く、取組の改善が必要な施策
第5章 心地よく暮らせる にぎわいと交流を支える まちづくり 【都市基盤】	<ul style="list-style-type: none"> ・都市基盤分野に関する指標は、66.7%がS・A評価である。 ・一方で、米原駅東口周辺の土地利用および駅周辺の交流機能への満足度の2つ（22.2%）がC評価である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「27. 広域的な交流機関の整備」「28. 持続可能な公共交通」「31. 道路網の整備」は、満足度が低く、重点的に取り組むべき施策 ・「29. 快適な住環境の整備」は、満足度と重要度がともに高く、今後も維持すべき施策 ・「30. 市内への移住・定住の促進」は、満足度と重要度がともに低く、取組の改善が必要な施策
第6章 まちづくりを進めるための 基盤 【都市経営】	<ul style="list-style-type: none"> ・都市経営に関する指標のS・A評価は31.3%にとどまっている。 ・公式ウェブサイトから市政情報を得る市民の割合など、C評価が31.3%ある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての施策が、満足度と重要度がともに低く、取組の改善が必要な施策

〈推進委員会委員からの主なご意見〉

【第3次米原市総合計画の策定に向けて】

- ・総合計画は市民のためのものであり、そのためには行政を含めて、地域住民全体で、他の自治体とは異なる価値を持っているという誇りを持って、自分たちの地域の価値をどのように高めていくかという発想で計画を定める必要がある。
- ・この条例によって、市民、行政、民間、米原市に関わるみんなが力を合わせて幸せを達成していく、人口減少の中で困難な目標を達成する、それを後押しする計画であってほしいし、そうしていかねばならないと思う。
- ・人口減少の中でも、米原市が幸せをデザインできるようなものになればと思う。

【米原市の現状】

- ・移住先人気ランキング（全国版）では、広域自治体では滋賀県は全国2位、基礎自治体では米原市は全国28位と非常に高い順位であり、米原市は全国的に大いに注目されていると言える。
- ・米原市は地方都市の中ではまだ恵まれた環境にある。
- ・市の50年後、100年後の存亡がかかっている大事な時期である。

【米原市を取り巻く社会情勢】

- ・国内外の激変する社会経済状況を考えると、10年先を見通して計画を策定する事は相当困難である。行政、市民、事業者等が現状をシビアに的確に理解し、現状の課題を整理し、達成可能な数値目標を設定することが必要。
- ・コロナ禍をはじめとして、この10年とはいわずここ数年のスパンで社会変化のスピードが本当に早まっているため、目標設定や目標の選定の仕方もアップデートしていく必要があるのではないかと。

【米原市の人口減少対策】

- ・目標が未達であっても、きつい目標を立てていても、人口減少等に対処できていない。
- ・人口を維持し活性化していこうという方針がなければ、私たちはここで仕事をして行くことができず、地域を離れるきっかけになってしまう。
- ・しっかり目標を立てて、必ず達成する、そのために真剣に取り組むたい。

【将来目標の設定に向けて】

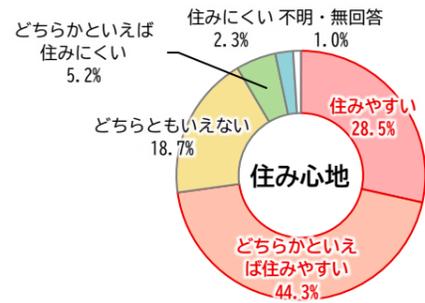
- ・数値目標の達成状況でC評価が1/3以上あったが、これは背伸びした無理な数値目標を設定したからではないか。目標設定は現状を踏まえてしっかりと設定する必要がある。
- ・余力があるうちに「米原スケール」というような指標、目標、物差しを提示する気概が必要ではないか。

市民、行政、民間、米原市に関わるみんなが力を合わせて幸せを達成していく、人口減少の中で困難な目標を達成する、それを後押しする計画であることが求められている

国内外の激変する社会経済状況を考慮すると、10年先を見通した計画策定は困難であるため、現状の課題を整理し、達成可能な数値目標を設定することが求められている

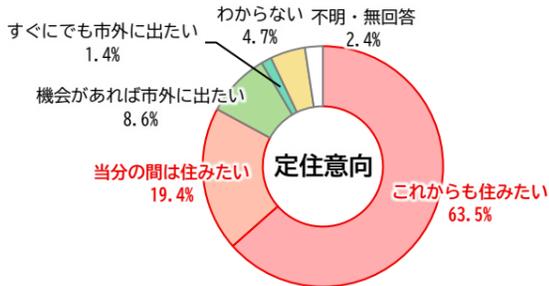
問10：米原市は住みやすいと思いますか。

・「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合は72.8%となっている。



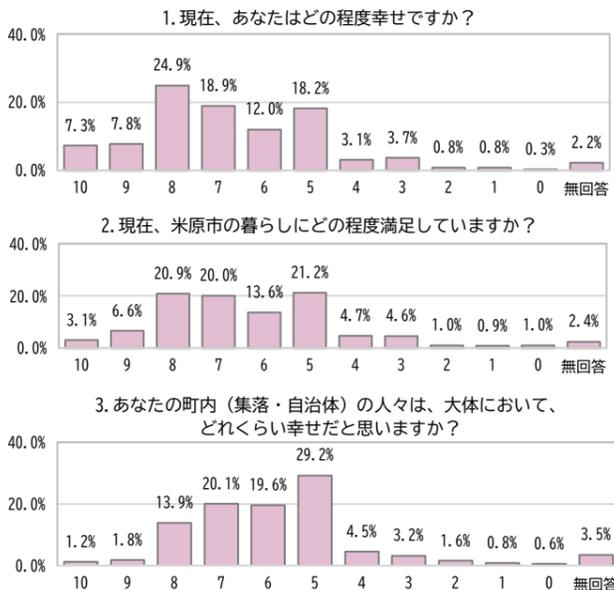
問11：これからも米原市は住みたいと思うか

・「これからも住みたい」と「当分の間は住みたい」を合わせた割合は82.9%となっている。



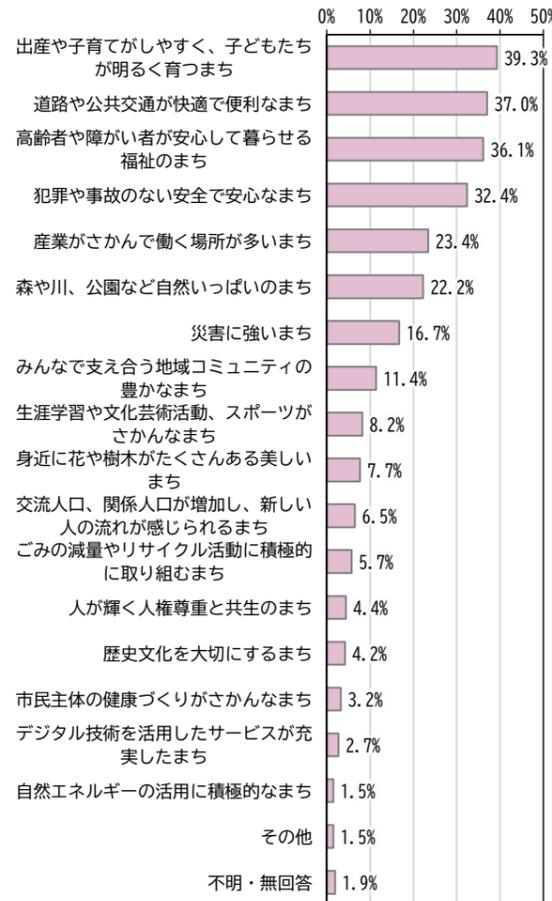
問12：米原市民の幸福度（Well-being指標）

- ・「1. 現在、あなたはどの程度幸せですか？」は、10点満点中8点と回答した人が最も多い。
- ・「2. 現在、米原市の暮らしにどの程度満足していますか？」「3. あなたの町内（集落・自治体）の人々は、大体においてどれくらい幸せだと思いますか？」については5点と回答した人が最も多い。



問15：米原市を将来どのようなまちにしたいか

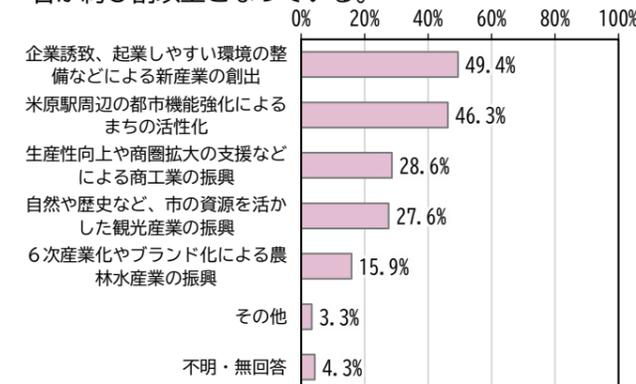
・「出産や子育てがしやすく、子どもたちが明るく育つまち」が39.3%と最も高く、次いで「道路や公共交通が快適で便利なまち」が37.0%、「高齢者や障がい者が安心して暮らせる福祉のまち」が36.1%の順となっている。



問36：米原市の人口減少対策について

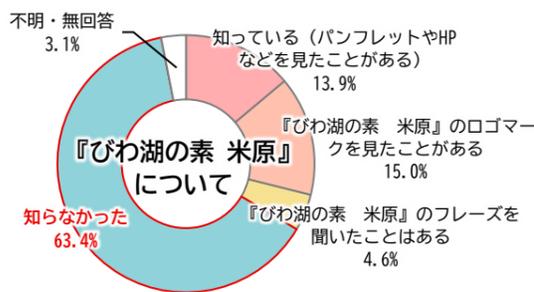
【あてはまる番号に2つまで○】

- ・地域経済の活性化に関する取組は、「新しい産業の創出」や「米原駅周辺の都市機能強化」の割合が約5割と高い。
- ・人口流出抑制と流入促進に関する取組は、どの取組も割合が約3割以上となっている。



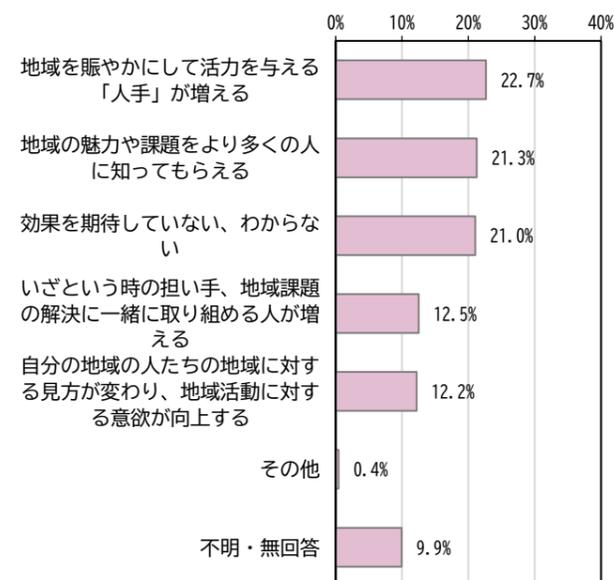
問37：米原市のシティセールスについて

・『びわ湖の素 米原』のコンセプトブランドについて、「知らなかった」の割合が63.4%と最も高い。



問38：関係人口や交流人口の創出に期待する効果

・「地域を賑やかにして活力を与える「人手」が増える」が22.7%、「地域の魅力や課題をより多くの人に知ってもらえる」が21.3%、「効果を期待していない、分からない」が21.0%の順となっている。



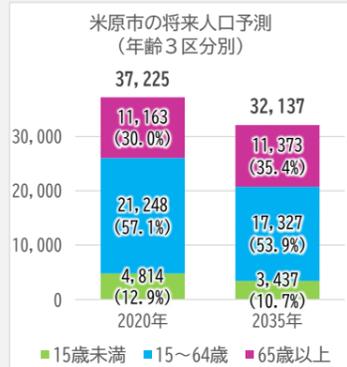
問39：米原市の総合戦略の目標に関する現在の状況

・「健康寿命が延伸し、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けられるまちになっている」「地域とともに子どもが育ち、子どもの成長に喜びや幸せを実感できるまちとなっている」が「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高い。

・「米原駅周辺が滋賀県の広域交流拠点となり、新たなにぎわいが生まれ、まちの魅力が高まり、様々な人が集うまちになっている」「駅と地域、地域の拠点と地域を結ぶ公共交通ネットワークの利便性が高まり、また、多様な移動手段が運用され、市内アクセスが高いまちになっている」が「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が高くなっている。

人口減少・少子高齢化への対応が必要

- 長期的な人口減少・少子高齢化傾向は確定的であり、国立社会保障・人口問題研究所が2018年に公表した推計結果では、米原市の2035年の人口は32,137人と2015年よりも5,088人（14%）減少し、高齢化率は35.4%にまで上昇すると予測されています。
- 急激な人口減少・少子高齢化に歯止めをかけつつ、人口減少・少子化を前提にしたまちづくりを進める必要があります。



課題の背景

社会情勢・米原市の現況

「ひと」と「企業」に選ばれるまちづくりが必要

- 米原市には恵まれた立地・交通条件、美しく豊かな自然や歴史文化など多様な地域資源、温かい人のつながりなど多くの資源があります。
- これらの地域資源を守りながら活かし磨きあげ、「暮らすなら米原市」、「働くなら米原市」、「遊ぶなら米原市」、「創業・立地するなら米原市」と、ひとにも企業にも選ばれる多様な暮らしと働き方があるまちづくりを進める必要があります。



課題の背景

米原市の現況・アンケート・委員の意見

こどもまんなか社会の実現が必要

- 深刻な少子化や子育てし辛い社会環境、虐待や不登校の増加、ヤングケアラーなど、こどもと子育てに関する多くの課題があり、いずれも放っておく事ができないものです。
- これまで米原市が続けてきた取組を生かしつつ、こどもをまんなかに、より一層地域コミュニティ、企業などすべての主体がこどもと子育て中の方々を応援する地域社会の実現に取り組む必要があります。



課題の背景

社会情勢・アンケート

持続可能な移動手段の確保が必要

- 米原市には、広域交通の結節点である新幹線駅、高速道路インターチェンジだけでなく、JR東海道線4駅、北陸本線1駅、近江鉄道1駅と多数の駅が立地し、通勤通学など日常の移動の利便性を支えています。市内の地域公共交通として、路線バス（6路線）、乗合タクシーまいちゃん号、まいちゃんバスが運行しています。特に乗合タクシーまいちゃん号は、市内全域をカバーしています。
- バスの運行の効率化、運転手の確保、利用促進や新たな移動手段の確保など、人口減少、高齢化に対応した移動手段の維持、確保に取り組む必要があります。

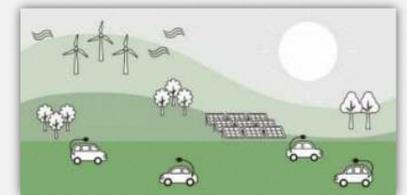


課題の背景

米原市の現況・アンケート・委員の意見

カーボンニュートラルの取組が必要

- 脱炭素社会の実現は、地球温暖化対策として不可欠な世界共通の目標です。政府は2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラル達成に取り組んでいます。米原市は令和4年に脱炭素先行地域に選定されています。
- 再生可能エネルギーの利用促進や豊かな森林・農地の保全に取り組む必要があります。



課題の背景

社会情勢・米原市の現況

多様な主体との連携・協働の推進が必要

- 人口減少、高齢化が進展する中、地域社会や地域文化の担い手が不足しており、これまで取り組んできた様々な事業の継続が難しくなっています。
- これまで以上に各主体間の連携を進めるとともに、新たな仕組みで米原市に継続的に関わり、つながる人々を増やす必要があります。



課題の背景

社会情勢・米原市の現況・委員の意見

地域コミュニティ・地域福祉・医療の再編が必要

- 地域のつながりが強く、支え合い活動の活発さが本市の強みの一つです。しかし、ひとり暮らし高齢者やひとり親家庭の増加など地域とのつながりが築きにくい人が増加傾向にあり、また、コロナ禍を通じて地域のつながりが希薄化しています。また、地域医療体制に対する市民の満足度が低調です。
- 福祉などに関する専門人材の確保や今後を見据えた地域コミュニティ・地域福祉および地域医療の体制・仕組みを再編する必要があります。



課題の背景

米原市の現況・アンケート

防災力の強化が必要

- 近年、自然災害の激甚化・頻発化が進んでおり、令和6年には市内でも土砂災害が発生し、ハード対策だけでは安全・安心を確保することは困難です。
- 専門機関と行政、地域の連携による危機管理体制の強化、避難などの際に支援を必要とする住民への対応策の整備など、いざという時に備え防災力を強化する必要があります。



課題の背景

社会情勢・米原市の現況

DXの推進による課題の解決が必要

- デジタル技術は、情報伝達の即時性やコスト低減などに大きな力を発揮します。コロナ禍で行動が制限される中で、デジタル技術が非接触や非対面に力を発揮しました。
- 需要と供給やシェアリングのマッチング、リモートセンシングなどデジタルの力を最大活用して地方都市が抱える様々な課題の解決に取り組む必要があります。



課題の背景

社会情勢・米原市の現況

第3次米原市総合計画骨子（たたき台）

第3次米原市総合計画の骨子（体系案）

- 米原市の主要な課題**
- 人口減少・少子高齢化への対応が必要
 - 「ひと」と「企業」に選ばれるまちづくりが必要
 - 地域コミュニティ・地域福祉・医療の再編が必要
 - 子どもまんなか社会の実現が必要
 - 持続可能な移動手段の確保が必要
 - 防災力の強化が必要
 - カーボンニュートラルの取組が必要
 - 多様な主体との連携・協働の推進が必要
 - DXの推進による課題の解決が必要

基本理念

米原市自治基本条例の制定の精神に立脚し、まちづくりの全ての分野にわたり重視していく考え方

米原市のまちづくりの将来像を理念・原則として、基本的な事項を明確にするために制定した「米原市自治基本条例（平成18年公布・施行）」に基づき、第3次米原市総合計画の基本理念を定めます。

本資料の6ページに「米原市自治基本条例（抜粋）」と基本理念（たたき台）をお示いたします。ご確認、ご意見をお願いします。

将来像

10年後にめざす米原市の姿

基本目標（たたき台）

将来像を実現するための政策推進の柱となるもの

分野ごとの将来像	（対象政策）	（施策分野）
災害に強く誰もが安全・安心して暮らせるまちづくり	防災・福祉	防災/消防/防犯/消費生活/交通安全/地域福祉/生活困窮/高齢者福祉/障がい者福祉/健康づくり/保険/医療
地域ぐるみで子ども・次世代の育成・成長を見守るまちづくり	子育て支援・教育	子育て支援/就学前・学校教育/家庭・学校・地域連携/青少年育成・生涯学習・歴史文化/スポーツ/人権
地域の魅力を生かした交流や産業が元気なまちづくり	産業経済	観光/農林水産/商工業/雇用/労働/起業
快適で便利な暮らしを支えるまちづくり	都市基盤	駅周辺活性化/都市計画/公共交通/空き家対策/定住促進/景観/道路/公園
水清く緑まぶしい自然を守り伝えるまちづくり	環境	自然環境/生活環境/上下水道
つながりを大切にするための効率の良いまちづくり	都市経営	協働・共創のまちづくり/シティセールス/広報広聴/自治会・地域コミュニティ支援/公民連携/公共施設マネジメント/自治体DX/行財政運営

参考

案①「この町はホッとする。でも、このままじゃ放っとけない。」

案②「風が、川がささやき、森がまちを見守る。でも人の声は少しずつ小さくなっていく。むかし話の途中でページが閉じかけたようなまち。でも、まだ続きがある。」

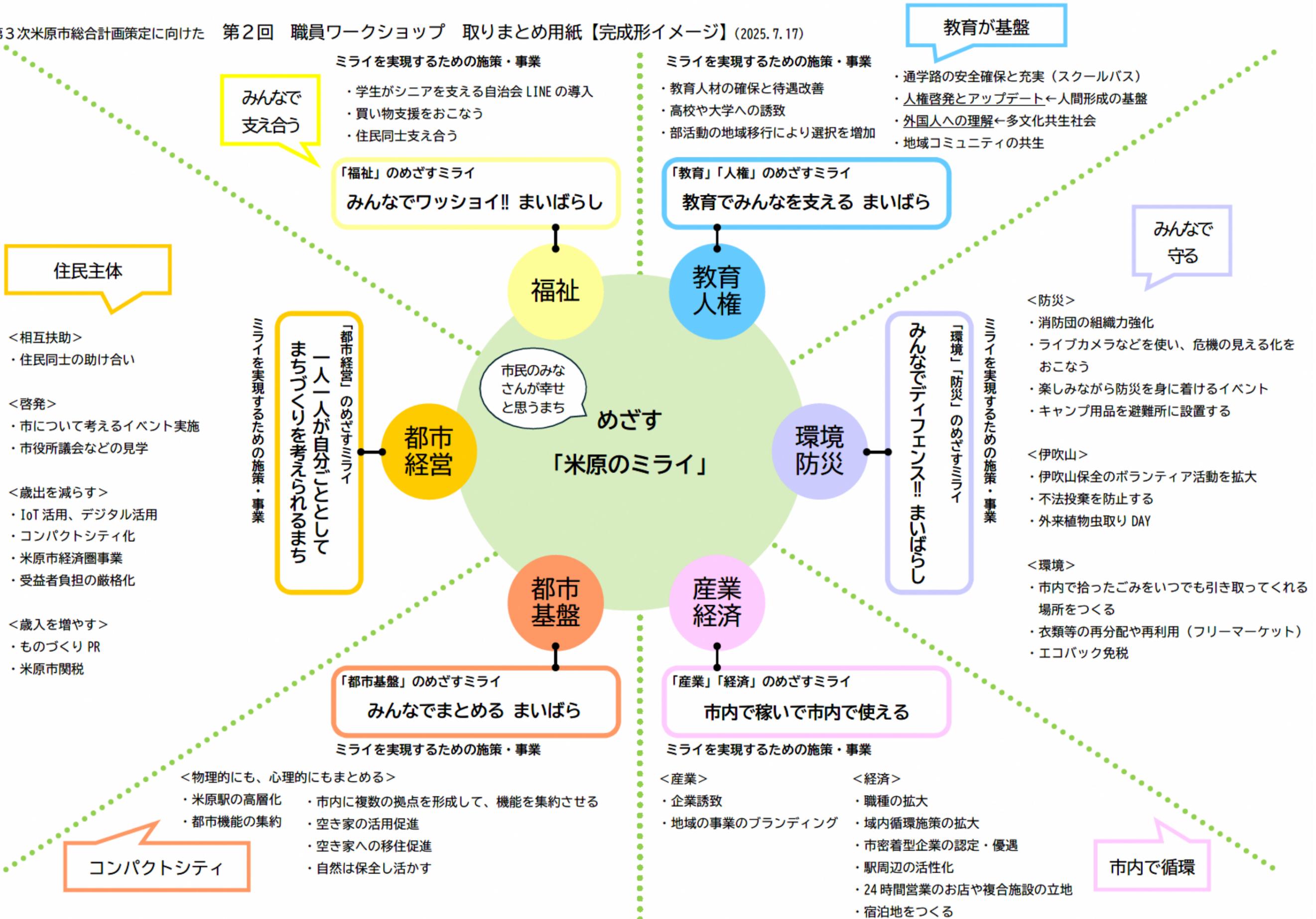
将来像に織り込むべき言葉の候補（案）

（アンケートやこれまでの会議でのご意見から）

- 喜び・幸せ・幸福・うれしい・感謝・感動・おいしい
- 住みよい・暮らしたい・定住・愛着・誇り・ふるさと・思い出
- 水・水源・澄む・ホタル・伊吹山・琵琶湖
- 子ども・次世代・子育て・はぐくむ・若者
- 便利・快適・楽しい・交流・にぎわい
- 働く・産業・挑戦・成長・発展
- 安心・安全・福祉・包摂・だれもが・健康・健やか
- ともに・協働・みんなで・支え合い・絆・自治・合理化

【参考】米原市役所若手職員ワークショップによる分野別のミライ像

第3次米原市総合計画策定に向けた 第2回 職員ワークショップ 取りまとめ用紙【完成形イメージ】(2025.7.17)



「米原市自治基本条例（抜粋）」

朱書き・網掛け文字：第3次米原市総合計画の基本理念（案）の作成に参考としている箇所。
網掛けの色は、「幸福を追求する」「挑戦する」「つなぐ」との関連性を示す。

前文

この地に愛着をもって住み続け、その歴史は現代におけるこの地域の文化や社会生活のあり方に深く関わっています。

合併によって、私たちは新しい力を手に入れました。それまでの個々のまちづくりを統合することで、恵まれたさまざまな地域環境を活かした新しいまちづくりをすすめる条件が整ったのです。

私たちは、地域や人々の多様性を尊重し、環境を守りつつ、歴史や文化やモノの流れの結び目としてのこの地域の役割を、国際社会に広げつつ、**さらに輝かしく発展**させていきます。また、市民と事業者等および市の役割分担のもとに、豊かな人間性を持った人々を育み、**情報の共有と協働**によってこの**まちをさらに充実**させるために、**総力を挙げて**取り組んでいきます。

市民が、**自主および自立の理念**のもと、いつまでもこのまちに**安心して住み、働き、学び続ける**ことができるよう、ここに米原市自治基本条例を制定します。

・前文は、米原市におけるまちづくりの全体的な精神・理念を分かりやすい言葉で表現しています。
まちの特徴・地域資源の潜在能力を時代に継承し、まちの将来への展望・光を市民統合のシンボルにしようという考えで成文化しています。

第1条（目的）

第1条 この条例は、米原市が**自主および自立の理念**に基づき、**世代を超えて**住み続けられる魅力あるまちづくりを推進するための基本的な事項を定めるとともに、市民、事業者等および市の役割、権利ならびに責務等を明確にすることにより**地域社会の活力を高め**、米原市における**自治の確立**および**市民福祉の向上**を図ることを目的とする。

・米原市自治基本条例は、その目的を「地域社会の活力を高める」「自治の確立」「市民福祉の向上」としています。
条例は、自主・自立を理念・原則として、その構造や仕組み・進め方の基本的な事項を明確にしています。

基本理念（案）

米原市自治基本条例の制定の精神に立脚し、まちづくりの全ての分野にわたり重視していく考え方として以下の通り提案します。

幸福を追求する

量的充足を追い求めるだけでなく、市民のニーズを踏まえ、暮らしの質の向上、満足度の向上を通じて、市民が幸福を実感できるまちをめざします。

挑戦する

米原市が持つさまざまな魅力資源や可能性を生かし、新たな視点や技術を採り入れ、変化を恐れずに米原らしく発展を遂げるまち、市民・企業の挑戦を応援するまちをめざします。

つなぐ

世代を超えたひとのつながり、地域を超えたつながり（連携）、自然環境や風土、歴史・伝統を将来にわたって継承する時を超えたつながり。孤立や断絶を防ぎ、つながりで輝くまちをめざします。

「安心して住み、働き、学び続けることができるまち」の実現、「市民福祉の向上」を重視する精神を踏まえ、市民の幸福を追求することを基本理念とします

「さらに輝かしく発展」させること、「まちをさらに充実」させること、「地域社会の活力を高める」こと、「市民の自主、自立」を重視する精神を踏まえ、市・市民などが果敢に挑戦することを基本理念とします

「情報の共有と協働」すること、「総力を挙げて」取り組むこと、「世代を超えて」住み続けられることを重視する精神を踏まえ、世代や地域などを超えてつなぐ・つながることを基本理念とします